

現には、躯体の高気密・高断熱が必須条件であり、これに加えて高効率給湯器などの省エネルギー設備機器を使用することが求められる。最近、次世代省エネルギー基準より省エネルギーな住宅として「パッシブハウス東京1号住宅」が、高気密健康住宅研究所の企画により、建設されている。この住宅には、ロックウールが、天井（100mm）、充填断熱（140mm）+ 外張断熱（60mm）に使用され、その他に高性能サッシ・熱交換換気システムが採用された。最終的なQ値（損失係数）は、0.904 W/㎡・K¹、

®

i